

長島副大臣の損保ジャパン日本興亜復興支援マルシェ会見録

(平成28年3月2日(水) 12:15～12:20

於) 損保ジャパン日本興亜日本橋ビル)

1. 質疑応答

(問) まず、大盛況ですけれども、こうして視察されてみての御感想をお願いします。

(答) 先程の挨拶でもお話ししましたが、被災地の方の多くはやはり自分たちに少し自信をなくしている時期がずっと続いていたと思うんですね。でも、こうやって大きな企業が、続けて被災地に向き合ってくれて、こうして被災地の皆さんを招いて、被災地の産物を自分の会社だけではなくて、外にも公開してやっていただけるということで、少しやはり自信を取り戻すきっかけになっていただければいいなと思ってきましたけれども、それにしても、継続的にやっていただいているので、この大盛況を見て私もうれしくなります。

(損保ジャパン日本興亜・高橋専務) 先程、副大臣の方からもお話ありましたけれども、県と我々の会社の関係というのを大事にして、我々としては、皆さんやはり東北の復興を願わない人は日本人でないわけですから、こういうチャンスをこういうところで我々が設けて、皆さんに支援いただいて、また、それが東北の復興につながっていくということに非常に喜びを感じています。これからも引き続きこのような設定とか、新たな企画で復興支援に少しでも協力していきたいなというふうに思っています。

(問) 最近被災地に行かれたか。

(答) 昨日、一昨日と岩手に行っていました。毎週どちらかの県に行っております。

(問) 先程、道半ばというお話でしたけれども、大体、副大臣としてはどの程度とお考えでしょうか。

(答) 被災地全体としてということであれば、それぞれ感じ方はありますけれども、岩手、宮城については大体ゴールの見える地点に来ていると思います。ただ、福島だけは、その地点にまだ至らないということは、やはり現実として我々は突き付けられているんだろうというふうに思っています。マスコミの皆さんの力が非常に大きいので、こういった活動を被災者の生活等に伝えていただけると、やはり被災地の勇氣にもつながるし、全国の皆さんが、やはり東北に目を向けていただけるきっかけにもなるので、是非マスコミの皆さんには、こういったことを伝え続けてほしいなと思います。よろしくお願いします。

(以 上)